

緑区黒石学区

災害時避難行動マップ

～死者ゼロ・火災ゼロ・逃げ遅れゼロを目指して～

この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、黒石学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。避難行動マップをもとに、“いざ”という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

気を付けて！(地震編)

- 1. 空き家**
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。
- 2. 古い(高い)ブロック塀**
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ離れる。近づかない。
- 3. 狭い道**
近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。
- 4. 電線**
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。



- 5. 瓦屋根**
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

気を付けて！(風水害編)

- 1. マンホール・側溝**
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けて避難する。



- 2. アンダーパス、よく冠水・浸水する場所**
掘り下げ式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

指定緊急避難場所



・洪水・内水氾濫、土砂災害、大規模な火事などの、目前に迫った危険から命を守るための場所です。

指定緊急避難場所	災害種別	洪水・内水氾濫	土砂災害	地震の揺れ	大規模な火事
黒石小学校		○	○	グラウンド	×
黒石コミュニティセンター		○	○	×	×

大規模な火事が発生した時には、近隣の**広域避難場所**に避難しましょう。

- ・戸笠公園
- ・蝶貝公園
- ・滝の水公園
- ・通曲公園

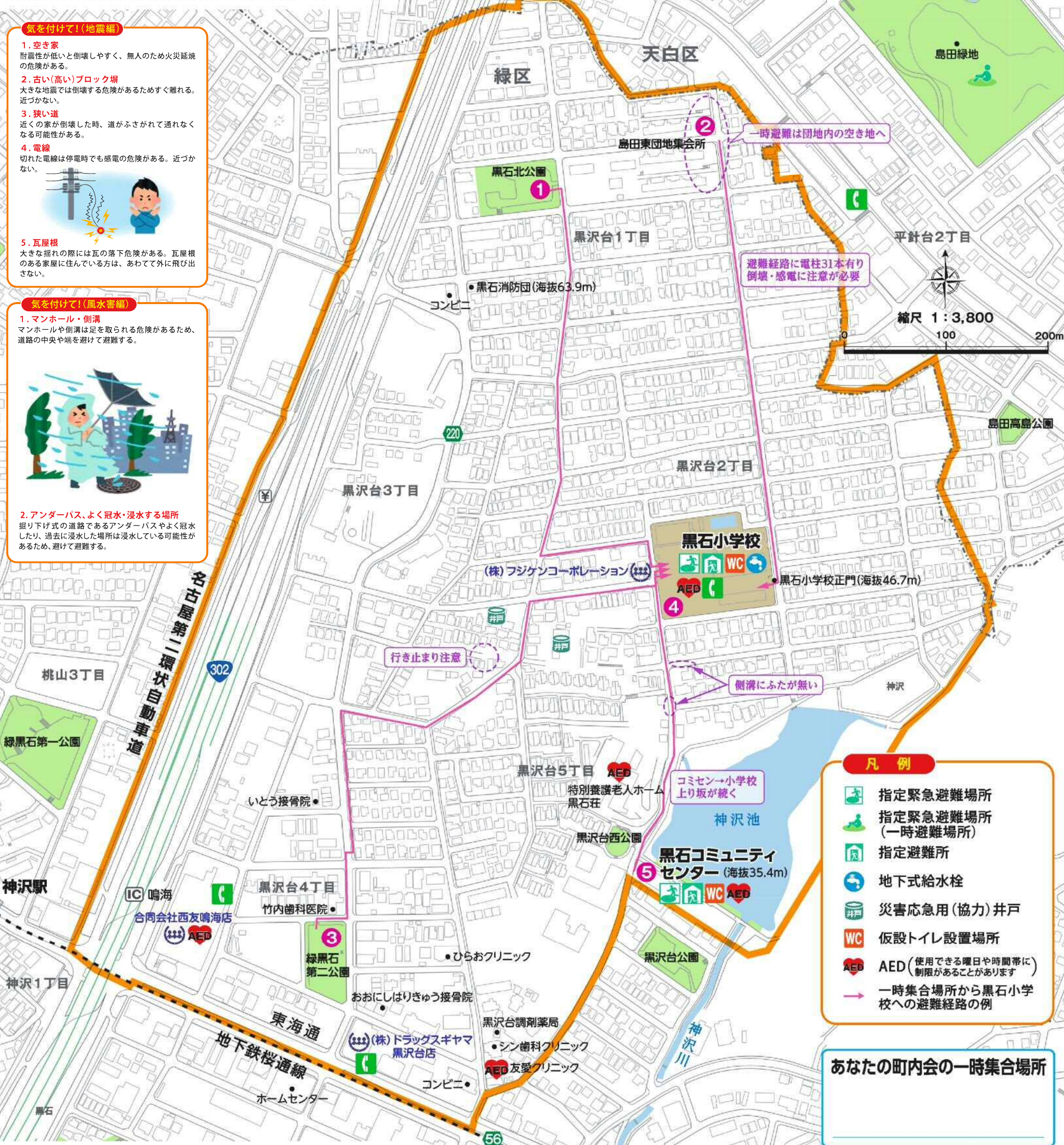
指定避難所



・火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、**一定期間、避難生活を送るためのところ**です。

- ・黒石小学校(TEL 876-5131)
- ・黒石コミュニティセンター(TEL 876-3441)

【重要】指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅で避難生活を送れるように、家具の固定と、7日分の備蓄を進めましょう。



凡例

- 指定緊急避難場所
- 指定緊急避難場所(一時避難場所)
- 指定避難所
- 地下式給水栓
- 災害応急用(協力)井戸
- 仮設トイレ設置場所
- AED(使用できる曜日や時間帯に制限があることがあります)
- 一時集合場所から黒石小学校への避難経路の例

あなたの町内会の一時的集合場所

【各町内会(自主防災組織)の一時的集合場所】

一時集合場所は、町内会(自主防災組織)で行う安否確認や初期消火、負傷者の救助などの自主防災活動の拠点です。大規模な地震が発生した場合、まず、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して“地域の助け合い”の活動に参加しましょう。

番号	一時集合場所	町内会名	番号	一時集合場所	町内会名
1	黒石北公園	うぐいす台北 うぐいす台南	4	黒石小学校	黒石中部 黒沢台東部
2	島田東団地集会所	島田東団地			黒沢台三丁目
3	緑黒石第二公園	黒沢台四丁目	5	黒石コミュニティセンター	黒沢台五丁目

【役に立つ場所】

地域防災協力事業所	災害時に地域に対して支援協力してくれる事業所です。 ・株式会社フジケンコーポレーション ・株式会社ドラッグスギヤマ黒沢台店 ・合同会社西友鳴海店
公衆電話	NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的になり、状況に応じて無料になります。
【その他】	・病院、薬局などの医療機関 ・スーパー、コンビニ、ガソリンスタンドなどの商業施設

緑区

世帯：2,180 世帯

黒石学区

人口：5,168 人

面積：0.587 km²

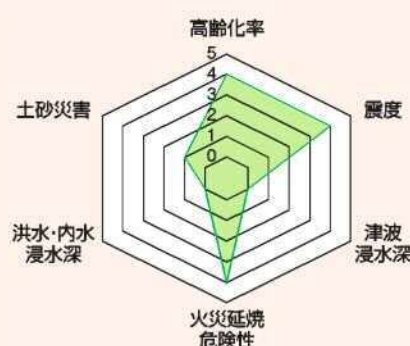
(令和2年1月1日現在推計人口より)

や家族の身を守るために、日頃から家具の転倒防止などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、普段利用している道を通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区は一戸建ての住宅が密集している地域のため、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。日頃から火災を起こさないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる広域避難場所を確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	26.4%	4
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	1,000~2,500棟未満	4
洪水・内水浸水深	0m	0
土砂災害	警戒区域に 人家・施設なし	1



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック塀など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。
名古屋市 地区防災カルテ 検索



非常持出品の準備

いざという時すぐに持ち出せるよう、非常持出品を準備しておきましょう。

【備蓄品の例】災害に備えて用意しておきたいもの

7日分程度用意しましょう

命をつなぐために用意しておきたいもの
□保存がきく食品(自分が食べやすいもの)
□常備薬(持病の薬を含む)
□飲料水(ペットボトル)
1人1日3リットルが目安です。また、水分の多い食品(ゼリーなど)と組み合わせることで量を減らすことができます。

◆防災用品
□給水用のポリ容器・バケツ
□ロープ
□バール
□のこぎり・工具など
◆燃料
□カセットコンロ(予備のボンベ含む)
□固形燃料
◆衣料品
□衣類(着替え)
□タオル(大小2種類)
◆寝具等
□毛布
□寝袋
□キャンプ用テント
◆便利用品
□ドライシャンプー

非常持出品の例

◆防災用品
□携帯ラジオ
□ヘルメット・防災ずきん
□軍手
□マスク
◆貴重品
□現金(小銭も必要)
□預(貯)金通帳の写し
□健康保険証・免許証の写し
□カード類
□認印・印鑑など
◆食器類
□はし・スプーン
□紙皿・紙コップ
◆食料類
□缶詰
□乾パン
□インスタント食品
□缶詰
□乾パン
□インスタント食品
◆その他(個人的に必要なもの)
□粉ミルク
□生理用品
□紙おむつ
□予備のメガネ・補聴器など

火災から命を守るために「今」できること

●住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。

住宅用火災警報器により、火災を早く発見し、火災を未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐこともできます。また、設置後も定期的に、動作確認を行うようにしましょう。

●住宅用消火器等を設置する。

小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅専用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくと、いざという時に役立ちます。

●感震ブレーカーを設置する。

感震ブレーカーは、地震の揺れを感知すると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。

●隣近所の協力体制をつくる。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識をもって、隣近所で声を掛け合うなど地域ぐるみで「放火されない環境づくり」に努めることが放火対策の重要なポイントです。



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。

◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

地震時の行動(津波浸水想定区域外)

揺れた!!

揺れがおさまった!!

災害の危険解消
自宅での滞在が可能か

避難先へ
在宅避難

緊急避難が必要な場合は、避難!

●身の安全の確保

- ・頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- ・安全に消せる場合は火を消す
- ・家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



机がない時は、クッション、かばんなど物で頭を守りましょう。



自宅の耐震化や家具転倒防止対策を進めておきましょう。

- ・火の元の確認、出火したら初期消火
- ・怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
- ・家族の安否・家屋の被害状況の確認
- ・テレビ・ラジオ・スマホなどから正しい情報の入手
- ・非常持出品の準備

町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救護等を行う自主防災組織の活動にご協力をお願いします。

◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を! 避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。



在宅避難している高齢者や障害者などへの声掛け



最寄りの避難所で避難者登録



周囲で食料や物資を分け合う

●高齢者や障害者などの避難誘導を



●原則、徒歩で避難



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、近隣の方からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなでいち早く避難行動がとれるように協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。

対応方法



やさしい言葉でゆっくり声かけ



メモや身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えばこんな方

普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。

対応方法



複数で手伝う

身近にあるものを利用する

町内会(自主防災組織)による安否確認訓練に力を入れています!

わが家は

無事

です。

黒石学区町内会

学区では、町内会に加入されているご家庭に、左のような安否確認プレートをお配りしています。

災害発生時、家族が無事である場合に玄関先などに掲げることによって、助けを必要としている人をすばやく見つけることができます。

学区では年に3回、6月の学区一斉大掃除キャンペーン、9月の学区自主防災訓練、12月の年末火の用心餅つき大会に合わせて掲示訓練を実施しています。

～いつ起こるか分からない大災害に備え、積極的に訓練に参加しましょう～